5 JASPPのあゆみ

鋼管杭協会（Japanese Association for Steel Pipe Piles：略称 JASPP）は、1971年（昭和46年）8月2日に設立され、37年間にわたり鋼管杭・鋼管矢板に関する技術開発、普及活動を続けて参りました。1995年（平成7年）には協会規約を改正し、新たに鋼矢板を取り扱うこととなりましたが、その後は鋼矢板を含めて様々な活動にも取り組み、官界・学会にも広く存在を認められるに至りました。また、公益法人関連の改正法が施行されたのを機に、2009年（平成21年）4月1日「一般社団法人 鋼管杭・鋼矢板技術協会（Japanese Technical Association for Steel Pipe Piles and Sheet Piles：略称 JASPP）」を設立し、鋼管杭協会の事業を引き継ぐとともに、技術協会として再出発しております。
これまでの当協会の活動について、簡単ではありますが、ご紹介させて頂きます。

世の中の動き

1971年
- 6月　「沖縄返還協定」調印
- 8月　円変動相場制に移行

1972年
- 2月　冬季オリンピック札幌大会開幕
- 9月　日中国交回復

1973年
- 10月　産油国値上げにより、オイルショック発生

1974年
- 5月　堀江健一「マーメイドⅢ世号」単独無寄港世界一周
- 10月　「巨人軍は永久に不滅です」長島茂雄引退

1975年
- 3月　新幹線岡山ー博多間開通
- 4月　サイゴン政府無条件降伏、ベトナム戦争終結へ
- 12月　本四架橋第一号大三島橋起工

1976年
- 2月　ロッキード事件明るみに

1977年
- 8月　32年ぶりに有珠山爆発

1978年
- 5月　成田新東京国際空港開港
- 6月　マグニチュード7.8宮城県沖地震起こる

1971年
- 鋼管杭協会発足。
- 初の説明会、「建築用鋼管ぐい施工指針・同解説」を東京、名古屋、大阪で開催。

1972年
- 機関誌「明日を築く」創刊号を発刊。

- 「鋼管杭設計施工基準集」（各官庁、学会、協会などで制定したものを要約）を作成。

1973年
- 「国際地震工学会議」出席と欧州における基礎工学調査団を派遣。

1974年
- 技術資料「鋼管ぐいーその設計と施工ー」（赤本）初版発刊。

1975年
- 建設省土木研究所と、「防食技術開発に関する共同研究」を開始。

1976年
- 技術資料「鋼管杭付属品の標準化」初版発刊。
- 技術資料「JASPPジョイントー鋼管杭半自動溶接工法ー」初版発刊。

1977年
- 「国際会議インターノイズ77」（スイス・チューリッヒで開催）で、防音カバーに関する論文を発表。
- 「第9回国際土質基礎工学会議」（東京大会）の運営・行事に協力し、英文パンフレット「STEEL PIPE PILE」を配布。
- 技術資料「SL杭製品仕様書、付属資料SL杭取扱書」初版発刊。

1978年
- 東京湾横断道路プロジェクトの人工島関係調査に協力。
- 宮城県沖地震による杭基礎構造物の被害調査を実施。

1979年
- 「鋼管杭の騒音振動低減工法」（特別技術委員会施工分科会編著）発刊。

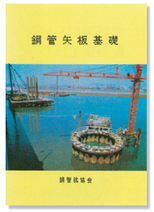
1980年
- 「第5回海洋腐食と汚染に関する国際会議」（開催バルセロナ）で、千葉・阿字ヶ浦暴露実験内容の論文発表。
- 技術資料「鋼管矢板施工標準・同解説」初版発刊。

1981年
- 「第10回国際土質基礎工学会議」（開催スウェーデン・ストックホルム）に参加。
- 協会創立10周年。「明日を築く」10周年記念号を発刊。

1982年
- 技術資料「鋼管杭の打撃応力と適性ハンマ」を発刊。

1983年
- 「熱帯地域での鋼管杭等暴露試験」開始（ミンダナオ島、シンガポールの2カ所で10年計画）。

1984年
- 技術資料「鋼管矢板基礎」（黄色本）初版発刊。



- 運輸省港湾技術研究所、（財）沿岸開発技術研究センターと鋼管杭の防食法に関する共同研究を開始（各種の防食鋼管杭の暴露実験を茨城県波崎で開始）。
- 技術資料「鋼矢板 設計から施工まで」（緑本）初版発刊。

1986年
- 「空港連絡橋の鋼管杭載荷試験」を関西国際空港（株）より受託。
- 技術資料「建築用鋼管杭施工指針・同解説」（鋼管杭協会編）を発刊。

1988年
- 技術資料「重防食鋼管杭・鋼管矢板製品仕様書」初版発刊。その説明会を全国37都道府県297カ所で実施。

1989年
- 「東京国際空港空港連絡橋鋼管杭載荷試験解析調査」を運輸省より受託。
- 「関西国際空港島内高架橋基礎鋼管杭載荷試験計画書作成業務」を関西国際空港（株）より受託。

1990年
- 技術資料「鋼矢板Q&A101題」初版発刊。

- 技術資料「重防食鋼管杭・重防食鋼管矢板施工の手引き」初版発刊。改訂赤本を用いて、全国10カ所で説明会を開催。
- 「高石工区杭鉛直載荷試験結果解析検討」を阪神高速道路公団より受託。
- 「関西国際空港／島内鋼管杭載荷試験、島内高架橋基礎杭鋼管杭載荷試験」を関西国際空港（株）より受託。

世の中の動き

1979年
- 6月　OPEC総会、原油大幅値上げを決定
- 6月　第5回先進国首脳会議「東京サミット」開催

1980年
- 3月　日銀公定歩合を9%に。高金利時代へ

1981年
- 3月　中国残留日本人孤児47名、初の正式来日

1982年
- 6月　東北新幹線開業
- 11月　上越新幹線開業

1983年
- 4月　東京ディズニーランド開園
- 5月　日本海中部地震

1984年
- 5月　「怪人21面相」グリコに毒物混入との脅迫状、9月には森永製菓も脅迫

1985年
- 3月　筑波科学万博開幕
- 8月　日航ボーイング747ジャンボ機が群馬県御巣鷹山山中に墜落

1986年
- 4月　男女雇用機会均等法施行
- 4月　チェルノブイリ原子力発電所の大規模事故

1987年
- 4月　国鉄が114年の歴史に幕を閉じ分割民営化、JR6社発足

1988年
- 3月　世界最長の青函トンネル開業、青函連絡船が80年の歴史に幕
- 4月　本州四国連絡橋瀬戸大橋、児島ー坂出ルート開業

1989年
- 1月　天皇陛下崩御、皇太子明仁親王が即位。政府は新年号を「平成」と決定
- 4月　消費税がスタート

1990年
- 10月　東ドイツが西ドイツに編入、統一ドイツ誕生

世の中の動き

1991年

1月　多国籍軍イラクに攻撃開始、湾岸戦争勃発
12月　ソビエト連邦崩壊

1992年

3月　東海道新幹線に、時速270kmで東京ー大阪を結ぶ「のぞみ」登場
6月　「地球環境サミット」、ブラジル・リオデジャネイロで開催、テーマは「地球」
9月　スペースシャトル「エンデバー」で日本人初の宇宙飛行士毛利衛さん宇宙へ

1993年

5月　サッカーJリーグ（日本プロサッカーリーグ）開幕
7月　北海道から東北地方を中心に「北海道南西沖地震」発生、北海道奥尻島が津波と大火災で壊滅状態

1994年

4月　台北発の中華航空機が名古屋空港で着陸失敗、乗客264人死亡
9月　大阪・泉州沖の関西国際空港開港

1995年

1月　阪神大震災、淡路島を震源とするマグニチュード7.2の直下型地震。死者6432人、約51万頭の住宅が全半壊、一部損壊、都市型基盤が壊滅状態に

3月　東京都地下鉄霞が関駅付近で、サリンによる死者多数、後にオウム事件に発展
8月　パソコン用OS、ウィンドウズ95発表

1996年

2月　羽生善治が王将戦において谷川浩司王将を破り、史上初、将棋のタイトル七冠独占を達成
4月　東京ビッグサイト（東京国際展示場）が開場
7月　アトランタオリンピック開催。日本は金3、銀6、銅5のメダル獲得。女子マラソン競技で有森裕子が銅メダルを獲得
8月　病原性大腸菌「O-157」による集団食中毒が日本列島を襲う。患者9000人超、死者11人

1991年

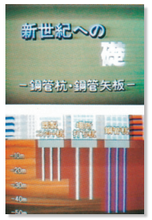
- 協会創立20周年。「1971～1991 そして未来へ ー鋼管杭協会設立20周年記念誌ー」発刊。
- 「東京国際空港／ターミナル地区中央南北連絡橋載荷試験解析調査、立体駐車場（南棟）載荷試験解析調査」を運輸省より受託。

1992年

- ビデオ「重防食鋼矢板」制作。全国説明会実施。
- 「東京国際空港沖合展開事業地盤支持力の特性解析調査」を運輸省より受託。
- 「東京湾横断道路鋼管杭の動的支持力測定試験検討」を（財）高速道路調査会より受託。

1993年

- 防食鋼管杭の開発とその海洋暴露試験報告書（千葉沖、阿字ヶ浦沖）作成。
- 鋼管杭、鋼管矢板PR用ビデオ「新世紀への礎」を制作。



1994年

- 技術資料「鋼矢板標準製品仕様書」初版発刊。
- 「鋼管杭の中掘り杭工法（セメントミルク噴出攪拌方式）施工要領」（紫本）初版発刊。

- 運輸省より「東京国際空港／新B滑走路水平載荷試験解析業務、斜杭挙動解析調査」を（株）構造技術センターより受託。

1995年

- 阪神大震災後、震災復興協力委員会を設置。鋼管杭・鋼管矢板基礎などの被害状況について調査・解析を実施。

- 運輸省港湾技術研究所と共同で、「重防食鋼矢板の耐久性に関する研究」を開始。

1996年

- 八戸工業大、京都大「鋼管杭基礎の終局水平耐力に関する組杭模型実験」に参加。
- 大水深基礎として「鋼管トラス基礎設計マニュアル」を発刊。
- 「波崎沖海洋暴露試験」が12年目、「熱帯地域での暴露試験」が10年目を迎え、研究の総まとめを行う。

- 「鋼管杭の耐震性について組杭での水平載荷試験」を（財）土木研究センターより受託。
- 「高浜桟橋・鋼管杭の肉厚調査に関する業務」を（社）日本埋立浚渫協会より受託。
- 「神戸港鋼構造岸壁の被災状況調査」を（財）沿岸開発技術研究センターより受託。
- 「桟橋式・耐震強化岸壁の設計法の検討調査」を（財）沿岸開発技術研究センターより受託。

1997年

- 協会ホームページを開設。

- 「道路示方書下部構造編の改訂および鋼管杭の新設計法と保有耐力」「鋼管矢板基礎の新設計法と保有耐力」「広幅型鋼矢板の開発とその特徴」に関する講習会を全国で実施。
- 「名古屋港鋼管杭支持力試験解析検討」を（財）沿岸開発技術研究センターより受託。

1998年

- 技術資料「防食ハンドブックー設計・施工・維持管理ー」初版発刊。

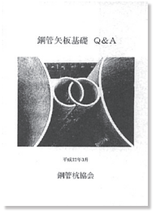
- 「鋼管杭を基礎とする建築物の二次設計に関する検討」を運輸省より受託。
- 「古宇利大橋・琉球石灰岩における鋼管杭基礎に関する調査業務」を（社）日本建設機械化協会より受託。
- 「伏木富山港（新湊地区）鋼管杭支持力検討業務」を（財）沿岸開発技術研究センターより受託。

1999年

- 技術資料「『SI単位系』への移行における参考資料」を作成。それらを用いて、鋼管杭などの技術講習会を実施。

2000年

- 技術資料「鋼管矢板基礎Q&A」を発刊。



- 「SW2000サンパウロ国際会議」（第6回波動理論の杭への適用に関する国際会議）に参加。論文6編を発表。
- 技術資料「バイブロハンマ工法」、パンフレット「鋼管杭エコマネジメント」「橋梁基礎には鋼管矢板基礎を！」を発刊。技術講習会を実施。
- 「古宇利大橋の支持力調査検討業務」を沖縄県北部土木事務所より受託。

2001年

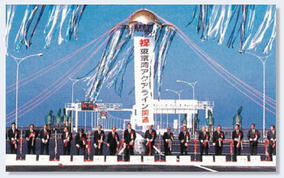
- 鋼管杭協会創立30周年。「明日を築く」30周年記念号を発刊。記念講演、シンポジウムを開催。

- 「正蓮寺川工区鋼管矢板調査業務」を阪神高速道路公団より受託。
- 「舞鶴西大浦漁港防波堤鋼管杭動的載荷試験業務」を舞鶴市より受託。
- 「十勝港人工液状化実験」を（独）港湾空港技術研究所より受託。
- 「東名阪鋼管矢板土留め壁構造試験」を日本道路公団より受託。
- 自立式鋼矢板設計プログラムを作成、ホームページ上で公開。

世の中の動き

1997年

4月　消費税3%から5%に引き上げ
10月　長野新幹線開業
11月　短期資金の調達が深刻化、銀行と証券の4社が連鎖的に経営破綻
12月　神奈川県川崎市と千葉県木更津市を結ぶ、東京湾アクアライン開通



1998年

4月　明石海峡大橋開通、全長3911mで世界最長のつり橋

6月　サッカーフランスW杯開催、日本初出場

1999年

1月　欧州統一通貨「ユーロ」導入、2002年1月から紙幣、硬貨が出回る
8月　「銀行再編」、第一勧業銀行、富士銀行、日本興業銀行が事業統合。10月には住友銀行とさくら銀行が合併発表
12月　約450年間、ポルトガルに支配されたマカオが中国に返還。西欧諸国のアジア植民地消滅

2000年

6月　南北朝鮮首脳、初の会談実現
7月　二千円札発行、新額面紙幣発行は42年ぶり
7月　三宅島の雄山が噴火、9月に都が「全島避難」を指示
9月　シドニー五輪で日本女性陣が大活躍、女子マラソンの高橋尚子が金メダルに輝いたほか、柔道女子48キロ級で田村亮子が3度目の五輪で悲願の初優勝。金5、銀8、銅5の計18個のメダルを獲得

2001年

9月　東京ディズニーシー開園
9月　アメリカ同時多発テロ事件発生
10月　東日本旅客鉄道が東京圏でIC乗車カード「Suica」のサービスを開始

世の中の動き

2002年

5月　日本・韓国共同開催のサッカーW杯で日本はベスト16
9月　日本鋼管と川崎製鉄が経営統合、持株会社JFEホールディングスが発足
10月　日本人拉致被害者5人が北朝鮮から24年ぶりに帰国

2003年

2月　アメリカ・イラク戦争、アメリカ軍がイラクへの攻撃を開始
9月　北海道釧路沖地震が発生、死者1人、重軽傷者200人以上
10月　東海道新幹線品川駅が開業
11月　第2次小泉内閣が発足

2004年

7月　新潟県と福島県で集中豪雨による洪水の被害、死者12人。福井県で集中豪雨の被害、死者3人
10月　「新潟県中越地震」新潟県中越地方で震度6強の地震が3回発生、死者39人、被災者10万人以上
12月　インドネシアのスマトラ島沖のM9.0の地震が発生、津波による被害で約29万人が死亡

2005年

2月　中部国際空港（セントレア）が愛知県常滑市沖合に開港

3月　2005年日本国際博覧会（愛知万博）「愛・地球博」が開幕
4月　JR福知山線脱線事故が起こる。運転士含め死者107人・負傷者555人とJR史上最悪の鉄道事故となる

2006年

1月　日本郵政株式会社が発足
2月　トリノオリンピック女子フィギュアスケートで、荒川静香が金メダル獲得
9月　第一次安倍内閣発足

2002年

- 第37回地盤工学研究発表会（大阪）で鋼矢板芯壁堤等を出展。

- 土木学会第10回地球環境シンポジウムで遮水鋼矢板・鋼管矢板などを出展。
- 鋼管矢板・鋼矢板遮水壁工法のオーソライズを目的とした呉港実海域性能確認試験への対応。
- 東京港臨海大橋主塔基礎における、大口径鋼管杭の支持力評価や縞鋼管継手のせん断耐力評価などの研究を開始。
- 海上空港技術研究委員会を設置。φ1600鋼管杭の支持力機構の検討、連絡誘導路への鋼管矢板井筒基礎、機械式継手や高耐力継手など各提案に向けた技術活動を開始。
- 技術資料「鋼管矢板基礎－その設計と施工2002改訂版－」（黄色本）を発刊。

2003年

- 平成14年道路橋示方書改訂に伴ない、パンフレット「道路橋を支える鋼管杭」を作成し、技術講演会を実施。
- 鋼矢板に関するパンフレット6種（「鋼矢板道路擁壁」「多自然型鋼矢板護岸工法」「透水性鋼矢板工法」「調整池における鋼矢板の利用」「鋼矢板による液状化対策」「鋼矢板を用いた沈下対策工法」）を発刊。
- 「東京港臨海大橋／縞鋼管継手せん断耐力特性基準試験、大口径鋼管杭載荷試験解析」等を（財）沿岸開発技術研究センターより受託。
- 「海老江工区鋼管集成橋脚力学的特性検討業務」を阪神高速道路公団より受託。

2004年

- （独）港湾空港技術研究所、（財）沿岸技術研究センターとの共同研究、茨城県波崎での1984年以来の長期暴露試験の成果を紹介した「鋼管杭の防食法に関する研究」をホームページ上に公開。
- 許容変位量を中心とした鋼管杭（新工法含む）の優位性PR活動を推進。技術講演会を実施。
- 技術資料およびパンフレット「ハット形鋼矢板900」を発刊。

2005年

- 「東北中央自動車道軟弱地盤における摩擦杭設計基礎資料作成業務」を（財）高速道路技術センターより受託。
- パンフレット「鋼材を用いた港湾リニューアル工法」を発刊。
- 技術資料「鋼管矢板本体利用半地下道路構造例集」「縞鋼管継手を用いた鋼管矢板基礎」を発刊。
- 「桟橋の耐震設計法に関する講習会」を開催。

2006年

- 1984年より茨城県波崎沖で続けられてきた長期海洋暴露試験の総括報告書を発刊。

- 東京、大阪で「海洋暴露試験20年の研究成果－合同報告会－」を共同開催（主催（独）土木研究所、（独）港湾空港技術研究所）。
- 「性能設計照査技術検討」を（財）沿岸技術研究センターより受託。
- 「港湾鋼構造物の事例と鋼管杭協会の活動」を発刊。

- 高強度鉄筋を用いた杭頭結合構造の研究に着手。

2007年

- 第6代会長に関田貴司氏就任。
- 「鋼材を用いた高潮対策工法」「ベルタイプ式鋼管杭工法を！」などのパンフレットを発刊。
- 技術資料「鋼矢板 設計から施工まで2007改訂版」（緑本）、「重防食鋼矢板の施工の手引き」を発刊。

- 技術マニュアル「自立式鋼矢板擁壁設計マニュアル」発刊。

- 「縞鋼管高耐力継手を用いた鋼管矢板基礎」および「鋼管矢板本体利用構造事例集」等の新技術、新工法の技術資料を活用した技術説明会を実施。

2008年

- 斜杭構造の適用に関する研究に着手。
- （独）港湾空港技術研究所、日本埋立浚渫協会で港湾分野における支持力評価の標準化に関する共同研究を開始。
- 技術資料「鋼管杭の中掘杭工法施工要領（紫本）」第7版発刊。
- パンフレット「軟弱地盤や狭いスペースに適した鋼矢板道路擁壁」発刊。
- 協会ホームページをリニューアル。

2009年

- 協会法人化、一般社団法人 鋼管杭・鋼矢板技術協会 発足。
- 初代会長に橋本英二氏、代表理事に成田信之氏就任。
- 技術資料「鋼管杭－その設計と施工－」（赤本）改訂版発刊。
- 全国9ヵ所において技術講習会、パネル展示を実施。

2010年

- 代表理事に岡原美知夫氏就任。
- 技術資料「鋼矢板Q＆A」「JASPPジョイント－鋼管杭・鋼管矢板現場円周溶接工法－」「鋼管杭・鋼管矢板バイブロハンマ工法　その設計と施工（青本）」「鋼管杭・鋼管矢板標準製作仕様書」を発刊。
- 全国4ヵ所において技術講習会、パンフレット展示を実施。

2011年

- 第2代会長に西崎宏氏就任。
- 技術資料「重防食鋼管杭・鋼管矢板製品仕様書」「鋼管杭の施工法Q＆A（改訂2版）」「鋼管杭・鋼管矢板の附属品の標準化」「重防食鋼矢板製品仕様書（改訂5版）」「防食ハンドブック－設計・施工・維持管理－」を発刊。

- 技術資料「東日本大震災1次調査報告書」発刊。

2012年

- **技術講習会・説明会**
  - ・東日本大震災 被害調査報告
  - ・H24 道路橋示方書 鋼管杭・鋼管矢板に係る改定のポイント
  - ・鋼矢板芯壁堤・自立式鋼矢板擁壁について
- **新設委員会**
  - ・施工専門委員会
  - ・防食技術委員会

世の中の動き

2007年

2月　第1回東京マラソン開催。国内のマラソン競技会としては最高の3万870人が参加
8月　岐阜県多治見市及び埼玉県熊谷市において、日本観測史上最高となる気温40.9℃を観測

2008年

7月　日本がホスト国となる第34回主要国首脳会議。北海道洞爺湖町で開催
8月　北京オリンピック開幕
9月　アメリカ証券会社大手リーマン・ブラザーズ経営破綻

2009年

4月　朝鮮民主主義人民共和国がミサイル発射実験を実施。秋田県沖と太平洋上に落下
7月　国際宇宙ステーションで日本担当の実験棟「きぼう」が24年かけて完成

2010年

6月　小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還
10月　東京国際空港の4番目の滑走路であるD滑走路、新国際線ターミナルが供用開始

11月　日本がホスト国となる第18回APEC首脳会議が横浜市で開催

2011年

2月　鉄鋼で国内最大手の新日本製鐵と3位の住友金属工業が、2012年10月の合併を発表
3月　東北地方太平洋沖地震が発生。強い揺れや津波被害の影響で福島第一原子力発電所にて深刻な原子力事故が発生
7月　2011 FIFA女子ワールドカップドイツ大会決勝戦で、日本女子代表がアメリカ合衆国代表に勝利し、初優勝

2012年

5月　東京スカイツリー開業、高さ634m
7月　ロンドン五輪で史上最多のメダル38個を獲得
12月　衆院総選挙で自民党が圧勝、安倍新政権誕生

世の中の動き

2013年

4月　日銀が異次元の量的・質的緩和を決定（アベノミクス）
6月　富士山が世界文化遺産に決定
9月　2020年夏季五輪・パラリンピック、東京開催決定
12月　中華人民共和国の無人月探査機「嫦娥3号」が月面着陸に成功。1976年のソ連以来3か国目

2014年

3月　日本一の超高層ビル、あべのハルカス開業

4月　消費税が8%に
8月　広島豪雨、土砂崩れで74人死亡
9月　御岳山噴火で57人死亡　戦後最悪の火山災害に

2015年

3月　東京ー金沢間を結ぶ北陸新幹線開業

11月　イスラム国によるパリ同時多発テロが発生
12月　第21回気候変動枠組条約締約国会議（COP21）でパリ協定2015年を採択

2016年

4月　熊本地震発生、関連死を含め173人が死亡
6月　アメリカメジャーリーグ（MLB）・マイアミ・マーリンズのイチローがNPB/MLB通算4257安打目を放ち、ピート・ローズの持つメジャー最多安打を日米プロ野球リーグの通算で上回った
8月　天皇陛下、生前退位の意向示唆
8月　リオデジャネイロ五輪で史上最多のメダル41個を獲得

2013年

技術講習会・説明会
- 鋼管杭・鋼管矢板に関する技術動向
- 中掘り杭工法の施工ガイドライン
- 鋼管ソイルセメント杭工法及び回転貫入杭工法の設計と施工
- 鋼管杭・鋼管矢板基礎等の設計・施工
- 中国地方建設技術開発交流会2013（山口県会場）：中掘り杭工法（セメントミルク噴出攪拌方式）の風化花崗岩（まさ土）への適用性
- 国土強靭化に寄与する堤防の耐震・津波対策工法並びに事例紹介

2014年

技術講習会・説明会
- 道路橋示方書 鋼管杭・鋼管矢板に係る改定ポイント
- 鋼矢板の海岸堤防への適用
- 建設用鋼材（鋼矢板・鋼管杭・鋼製壁体）

発行・出版物
- JASPP Technical Library ー施工ーシリーズ（中掘り杭工法施工要領、中掘り杭工法施工ガイドライン）

新設委員会
- 施工管理普及委員会

2015年

技術講習会・説明会
- 杭基礎便覧の改訂ポイント
- 鋼矢板の設計、施工について
- 震災・津波対策における鋼矢板・鋼管杭の適用事例
- 鋼管杭基礎・鋼管矢板基礎の中掘り杭工法施工要領

協賛
- 土木研究所、港湾空港技術研究所：海洋暴露試験30年の研究成果合同報告会

2016年

技術講習会・説明会
- 河川堤防の液状化・沈下対策他
- 鋼管杭工法の施工管理要領説明会

外部委員会
- 日本道路協会：下部構造小委員会道路橋示方書・同解説（部分係数版）改定対応（本文・解説の内容検討、技術データの供出・提示）
- 日本建築学会：（「建築基礎構造設計指針」改定対応）建築基礎構造設計指針改定小委員会（施工管理）、杭鉛直挙動検討小委員会、杭耐震設計小委員（鋼管杭性能評価）／本文・解説の内容検討、技術データの供出・提示

共同研究
- 土木研究所他：岩を支持層とする杭基礎の設計法・施工法に関する共同研究
- 土木研究所：既設道路橋基礎の耐震補強方法に関する共同研究
- 港湾空港技術研究所：港湾構造物における耐震設計手法の研究
- 港湾空港技術研究所他：波崎海洋研究施設における鋼管杭の防食法に関する長期暴露試験共同研究

発行・出版物
- JASPP Technical Library ー施工ー シリーズ（中掘り杭工法施工管理要領、回転杭工法施工管理要領、鋼管ソイルセメント杭工法施工管理要領）

2017年

対外発表・公表
- （一社）全国基礎工事業団体連合会、（一社）全国圧入協会と合同し、3協会での「鋼管杭施工管理士資格制度」創設を公表

技術講習会・説明会
- 鋼管杭工法の施工管理要領説明会
- 鋼管杭施工管理技術者育成講習会
- 平成29 年度構造土質検討グループ第1回技術講習会：鋼管杭等を用いた橋脚・橋台の補強

外部委員会への参画
- 日本道路協会：下部構造小委員会
- 日本建築学会：（「建築基礎構造設計指針」改定対応）建築基礎構造設計指針改定小委員会（施工管理）、杭鉛直挙動検討小委員会、杭耐震設計小委員（鋼管杭性能評価）

共同研究
- 土木研究所他：岩を支持層とする杭基礎の設計法・施工法に関する共同研究
- 土木研究所：既設道路橋基礎の耐震補強方法に関する共同研究
- 港湾空港技術研究所：港湾構造物における耐震設計手法の研究
- 港湾空港技術研究所他：波崎海洋研究施設における鋼管杭の防食法に関する長期暴露試験共同研究

発行・出版物
- 鋼矢板Q＆A
- 立体骨組み解析による鋼管矢板基礎の設計計算
- 鋼管杭 -施工と施工管理-
- 鋼材を用いた河川堤防の液状化対策工法

2018年

対外発表・公表
- 鋼管杭施工管理士検定試験委員会のホームページ開設

資格・認証
- 鋼管杭施工管理士検定試験（第1回：全国4会場／仙台、東京、大阪、福岡）

技術講習会・説明会
- 鋼管杭施工管理技術者育成講習会
- 平成30年度鋼矢板・鋼管杭に関する技術講習会
- 土木インフラセミナー治水対策（河川・ダム）編：鋼材を用いた河川堤防の液状化対策工法
- 平成30年度「H29 道路橋示方書改定」に関する講習会
- 平成30年度 構造土質検討グループ 第2回技術講習会：H29道路橋示方書による鋼管杭基礎の設計ー概要と留意点ー

外部委員会への参画
- 日本道路協会：下部構造小委員会
- 地盤工学会：杭の鉛直載荷試験基準改訂WG／本文・解説の内容検討
- 日本建築学会：（「建築基礎構造設計指針」改定対応）建築基礎構造設計指針改定小委員会（施工管理）、杭鉛直挙動検討小委員会、杭耐震設計小委員（鋼管杭性能評価）
- 日本建築学会：鉄筋コンクリート部材性能小委員会（耐震設計）／本文・解説の内容検討
- 日本建築学会：建築工事標準仕様書 JASS 3・4 改定小委員会／本文・解説の内容検討
- 公共建築協会：平成31年版建築工事監理指針改訂委員会／本文・解説の内容検討
- PFS 工法研究会

共同研究
- 土木研究所：既設道路橋基礎の耐震補強方法に関する共同研究
- 港湾空港技術研究所他：波崎海洋研究施設における鋼管杭の防食法に関する長期暴露試験共同研究
- 東北大学：引張軸力を受ける鋼管杭の終局耐力と塑性変形性能評価に関する研究

発行・出版物
- 鋼管杭・鋼管矢板の附属品の標準化
- 重防食鋼管杭・鋼管矢板　施工の手引き（第4版）
- H29年道路橋示方書に基づく鋼管杭による橋脚基礎の設計計算例

世の中の動き

2017年

1月　トランプ米政権発足
6月　中学3年生の最年少将棋棋士、藤井聡太四段が、昨年10月のプロデビューから負け知らずで30年ぶりに歴代最多連勝記録（28連勝）を塗り替える29連勝を達成
7月　九州北部豪雨発生、死者・行方不明41人
9月　陸上の男子100メートルで、桐生祥秀が10秒の壁を突破する9秒98を記録。日本選手で初めて9秒台の領域に踏み込んだ
12月　天皇の譲位の日程が2019年4月30日に決定

2018年

2月　冬季五輪平昌大会で、史上最多のメダル13個を獲得
7月　サッカー・ワールドカップ（W杯）ロシア大会で、日本はグループリーグを突破し16強入り。ベルギーとの決勝トーナメント1回戦で逆転負けし、初の準々決勝進出を逃す
7月　西日本豪雨、死者220人超

9月　台風21号が日本列島に上陸。この影響で関西国際空港が高潮による浸水のため運休の上、連絡橋が使用不可となり空港内の利用客約3000人が孤立
9月　北海道の胆振地方を震源とする地震が発生し、厚真町で最大震度7を観測。土砂崩れなどによる死者は41人。国内初の全域停電が発生
9月　大坂なおみがテニス全米オープン優勝、四大大会で日本人初
10月　東京・豊洲市場が開場

10月　将棋の藤井聡太七段が、歴代最年少・16歳2か月で新人王戦優勝
11月　2025年国際博覧会（万博）の開催地に、大阪が決定。国内での開催は2005年以来20年ぶり

世の中の動き

2019年

5月　天皇陛下が即位、「令和」に改元
8月　ゴルフの全英女子オープンで、渋野日向子が初優勝。男女を通じて、日本勢が海外メジャーで優勝するのは、樋口久子以来42年ぶり
9月　ラグビーワールドカップ日本大会、日本8強進出
10月　消費税10%スタート
10月　ノーベル化学賞にリチウムイオン電池を開発した吉野彰氏
10月　台風19号上陸、被害甚大、死者90人超

2020年

2月　テニス全豪オープン車いす部門シングルスで、男子は国枝慎吾、女子は上地結衣がそれぞれ優勝
3月　東京オリンピック・パラリンピック延期決定
4月　新型コロナウイルスの感染拡大、緊急事態宣言発令
7月　九州豪雨、死者77人
7月　藤井聡太七段、最年少でタイトル奪取

2021年

2月　日経平均株価が30年半ぶりに一時30,000円台を回復
4月　ゴルファーの松山英樹がアジア人初となるPGAツアーのメジャー大会で優勝
7月　TOKYO2020 オリンピック競技大会開催
8月　TOKYO2020 パラリンピック競技大会開催

2019年

資格・認証

・鋼管杭施工管理士検定試験（第２回：全国４会場／仙台、東京、大阪、福岡）

技術講習会・説明会

・鋼管杭施工管理技術者育成講習会
・鋼構造技術者育成講習会（東京・関西）：鋼製基礎・鋼管杭について
・茨城県建設コンサルタンツ協会講習会：H29 道路橋示方書による鋼管杭基礎の設計－概要と留意点－
・地盤技術フォーラム2019：鋼管矢板基礎の設計・施工のポイントと事例紹介
・建設コンサルタンツ協会講習会：鋼管杭・鋼矢板を用いた耐震補強方法の紹介～設計・施工の留意点～

外部委員会への参画

・日本道路協会：下部構造小委員会
・地盤工学会：杭の鉛直載荷試験基準改訂WG
・日本建築学会：基礎構造部材の強度と変形性能小委員会／本文・解説の内容検討、技術データの供出・提示
・日本建築学会：（「建築基礎構造設計指針」改定対応）建築基礎構造設計指針改定小委員会（施工管理）、杭鉛直挙動検討小委員会、杭耐震設計小委員（鋼管杭性能評価）、設計例改定小委員会
・日本建築学会：建築工事標準仕様書 JASS 3・4 改定小委員会
・公共建築協会：平成31年版建築工事監理指針改訂委員会
・国際圧入学会：PFS 工法の適用条件の拡大と地震時挙動評価に関する技術委員会
・東京都：東京港腐食対策技術検討会
・沿岸技術研究センター：根入れ式鋼板セル工法および鋼矢板セル工法技術マニュアル改訂委員会

共同研究

・港湾空港技術研究所他：波崎海洋研究施設における鋼管杭の防食法に関する長期暴露試験共同研究

発行・出版物

・鋼管杭の打撃工法施工管理要領
・重防食鋼管杭・鋼管矢板製品仕様書
・重防食鋼板製品仕様書 改訂８版
・鋼管杭・鋼管矢板標準製作仕様書（第７版）

2020年

資格・認証

・鋼管杭施工管理士検定試験（第３回：全国４会場／仙台、東京、大阪、福岡）

技術講習会・説明会

・鋼管杭施工管理技術者育成講習会

外部委員会への参画

・日本道路協会：下部構造小委員会
・地盤工学会：杭の鉛直載荷試験基準改訂WG
・日本建築学会：基礎構造部材の強度と変形性能小委員会
・日本建築学会：建築基礎構造設計指針設計例改定小委員会／鋼管杭基礎の設計例に関する内容検討と作成
・日本建築学会：建築工事標準仕様書 JASS 3・4 改定小委員会
・国際圧入学会：PFS 工法の適用条件の拡大と地震時挙動評価に関する技術委員会
・東京都：東京港腐食対策技術検討会
・沿岸技術研究センター：根入れ式鋼板セル工法および鋼矢板セル工法技術マニュアル改訂委員会

共同研究

・港湾空港技術研究所他：波崎海洋研究施設における鋼管杭の防食法に関する長期暴露試験共同研究